

井筒屋だより

第四十八号
令和六年
十月号

古書、小野友五郎、菊まつり……

井筒屋で郷土に親しもう

秋といえば読書。井筒屋の古書コーナーは開設以来、地元への愛着を感じられる場所として、好評をいただいています。また、井筒屋では、小野友五郎や菊まつりなど、地元イベントに関連した催しを開催予定。この秋、井筒屋で郷土愛を深めてください。

古書コーナーには、

が揃っています。

自治体が編纂した歴史書や茨城新聞社による記念誌、図録などの重量感があるものから、気軽に手に取れるものまで、幅広い本

豊富に掲載され、お手

頃品で人気を集めています。月に2回、商品を補充していますので、常に、新たな本を探せる楽しみもあります。地域の歴史に関して、欲しい本、探している本のリクエストも受け付け中。ネットでは得られない地域の物語を、井筒屋で見つけてください。

菊まつりは10月26日～11月24日

御城印2種類を限定販売

今年の菊まつり記念として、大菊版（写真右）とかさましこ版（左）の2種類の御城印を販売します。



小野友五郎新聞作品を掲示

小野友五郎を伝えてゆく会主催の「咸臨丸サミット in 笠間」（満員御礼）が10月27日に笠間稲荷神社で開かれます。それに関連した企画展「小野友五郎新聞コンクール」が開かれます。地元の小学生たちが調べ、まと

めた新聞の中から、入選作品が菊まつりの期間中（10月26日～11月24日）、2階の歴史展示コーナーに掲示されます。大人にはないユニークな視点の記事が楽しめますので、ぜひ、ご覧ください。

～10月のイベント～

万葉亭小太郎の井筒屋朝の会

日時：10月13日(日)午前10時30分(開場10時)

出演：万葉亭小太郎(落語)

万葉亭小太郎が、朝からたっぷり落語を申し上げます。

木戸銭：500円



スマホで簡単
ふるさと納税
抹茶セット返礼

笠間市外の方を対象に、井筒屋でふるさと納税ができるようになりました。今、全国の観光地に広がっている「店舗型ふるさと納税」の一環で、井筒屋の店頭で自分のスマホから3000円寄付していただく、返礼品として抹茶セットをご利用できます。

かさま歴史交流館井筒屋 笠間市笠間 987 電話 0296-71-8118

開館時間 午前9時～午後9時 月曜日休館(月曜日が祝日のときは火曜日が休館となります)

～このお便りでは、井筒屋の日々の様子やイベントの開催予定等をお知らせしています～



歴史こらむ

引布山徳蔵寺

猛暑が続く8月末に城里町にある徳蔵寺を訪ねた。笠間と非常に所縁がある寺で、旧七会村徳蔵(とくら)にあり、山号は引布山(いんぷさん)、寺院名は徳蔵寺(とくぞうじ)という。徳蔵という同じ漢字でも、地名と寺院名で呼び方が異なる。

て文献や伝承を調べまとめ書かれたもので、笠間史談会によって現代文に読み下した冊子が手元にある。現在、その冊子は絶版になっているが、市内図書館や井筒屋の閲覧コーナーで読むことができる。

笠間城記には、鎌倉時代に佐白山正福寺と引布山徳蔵寺との間で戦いがあった記述がある。笠間城記は、江戸時代に笠間藩主井上正岑の藩医である久保整伯によっ



地蔵菩薩像と地蔵堂の扁額

正福寺、徳蔵寺は、鎌倉時代にあった場所が今とは異なる。正福寺は、かつての笠間城的場丸(現在の千人溜まり駐車場)の入りの向かいにあった。大きな伽藍と三重塔を有した正福寺の絵図が井筒屋の2階に展示してある。また、徳蔵寺も今の場所より2kmほど離れたところにあったという。井筒屋だより41号で「花まつりの六堂ま

六堂の仏像を紹介した。その中で、地蔵菩薩があった阿弥陀院は、今は廃寺となり、地蔵菩薩は徳蔵寺にあると紹介した。同じ宗派の阿弥陀院と徳蔵寺は行き来があり、阿弥陀院の仏像が徳蔵寺に託されたようである。そのため、笠間の六堂参りは、今は笠間市外の徳蔵寺も含まれている。阿弥陀院にあった地蔵堂という扁額も当代の住職によって修復され、地蔵菩薩像の前に掲げられている。

ピアノとサクソ堪能



「サクソフォンとピアノによるコンサート」が開かれ、名曲の数々が演奏されました。



紙芝居で民話
「民話語り」ひとつきいてくださる」が開かれ、笠間の民話が紙芝居で紹介されました。

【井筒屋ニュース】



落語4席で大笑い

「万葉亭小太郎の井筒屋の夜会〜小太郎と愉快な仲間」が開かれ、楽しい落語が4席、披露されました。

【後記】

先日、トモアで開かれた南先生の歴史講座「穴戸城物語」を拝聴しました。

鎌倉初期から江戸末期までの約600年を一挙に解説し、穴戸地区の発展がよく理解できました。

特に興味深かったのは、長年その地を支えた穴戸家の本家がわずかな間に滅んだことや、そのあとにきた秋田氏の支配は短期間でも、現在つながる街の基礎を築いていることなどです。今でもお祭りや街づくりの活動が活発なのは、長い歴史が今につながっているためだと深く感じました。

もっと知りたいので、来年は時代を細かく区切った穴戸の歴史を取り上げてもらいます。一緒に受講しませんか。

(雄)